

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 286

2020/12/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

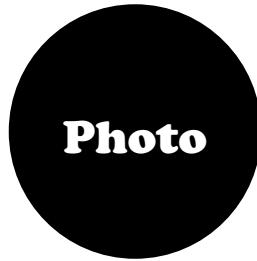
GREEN COLUMN

01. 子どもの気持ち大人の気持ち

02. 油彩画のマチエール



今月の一枚



「草花の冬」

表紙写真・文／城坂結実

いよいよ寒さも増し、日々、冬の訪れを感じます。散歩中にふと道端をみると、草花たちもいつの間にやら、冬の準備を整えていました。

写真はメマツヨイグサの「ロゼット」です。ロゼットとは、たくさんの葉が地面にへばりつく様つき、上から見ると丸い形になるものをいいます。背丈の高い植物が少なくなる寒い季節は、地面に近いほど葉が温まりやすく光合成が盛んにできるなど、植物にとってのメリットがあるようです。

Event. 今月のイベント

企画展「おひろめコレクション展」 12月5日(土)～令和3年1月17日(日)

プチ工房「お正月のだんご飾り」 12月18日(金), 19日(土)

Information. 参加者募集

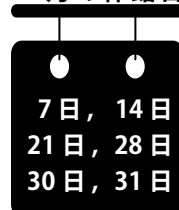
プチ工房「お正月のだんご飾り」

● 12/18(金), 19(土) ① 10:00 開始, ② 11:00 開始, ③ 14:00 開始, ④ 15:00 開始。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費 300 円, マスク ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(12/1-17)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要, 各回定員 12 名で締切。

プチ工房「ウシのメモスタンド」

● 1/8(金), 9(土) ① 10:00 開始, ② 11:00 開始, ③ 14:00 開始, ④ 15:00。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費 300 円, マスク ●久保田結衣(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(12/1-1/7)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要, 各回定員 12 名で締切。

12月の休館日



1月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

子どもの気持ち 大人の気持ち

写真・文／城坂結実



今年はコロナ禍で、みなさんと同じく、美幌博物館もいつもと大きく違う1年でした。例年は8月に行っていた小学校との連携授業が、9月にずれ込み、例年とは異なる季節に、子ども達と自然観察の機会を持つこととなりました。

ヤマブドウやコクワなどがたわわになっていて、話題に事欠かない、とある日の自然観察。その日のメインイベントは、二ホンカナヘビ探しです。二ホンカナヘビはトカゲの仲間で、美幌博物館に隣接するみどりの村森林公園では、よく見かけます（写真）。

森林公園の散策路を歩きながら、だんだんと二ホンカナヘビがいるポイントへ近づいていきます。「この辺りで、二ホンカナヘビを探してみよう。」と、子ども達に声をかけた直後、あちらこちらから「いた！」という歓声が聞こえました。予想より早くみつけたなあ、

と思っていたら、「こっちも！」「こっちも！」と歓喜の声は止みません。

結局、数分のうちに7匹の二ホンカナヘビを捕まえ、小学生は満足そうでした。「持って帰っても死んでしまうし、かわいそうだよ。」と伝えてみたのですが、彼らは二ホンカナヘビとともに森林公園を後にしました。

その後、ふと蘇ったのは、自分が小さい頃の思い出です。友人宅の庭にいた、二ホンアマガエルを、かわいいやら捕まえるのが楽しいやらで、ビニル袋いっぱいに入れて、自宅に持ち帰ったことがありました。もちろん、カエルがかわいそうだと思った母親に、こっぴどく叱られたことは言うまでもありません。

生き物に対する気持ちは、子どもと大人で異なるのかもしれませんが、いつの間にか、私も大人の仲間入りをしていたようです。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

油彩画の マチエール

作品／大江啓二・文／久保田結衣



マチエールという言葉をご存知でしょうか。主に油彩画やアクリル絵の具の表現で使われる用語で、「質感」を意味します。例えば、油彩画を鑑賞すると、絵の具が厚く塗り重ねられている、または、薄く塗られている、何やら砂のような物が塗布されている…など作品ごとに、様々なマチエールが存在することがみえてきます。

油彩画の厚塗りは、絵の具と乾性油（光沢のでる溶き油）を合わせて用いられることが多く、それを筆やペインティングナイフで塗る方法があります。また、乾くまでに厚塗りの部分をペインティングナイフで削ると、下地が現れ新たな表現が生まれます。他に質感を出すためのツールとして、砂や貝を細かく砕いたマチエール用の材料もあります。マットにして盛り上げる、つぶつぶ感が出るなど様々な種類があ

り、作品の演出に一役買うような役割を果たしています。

美幌博物館の収蔵作品で、個人的に面白いと感じる作品は、第3展示室にて展示中の、大江啓二作《夏》(1955)です（写真）。艶のある絵の具で塗り重ねられ、エネルギーに満ちた夏の空気感が伝わる作品です。厚塗りされた箇所^かにペインティングナイフで引っ掻いた跡があり、それが菜園の支柱となって表現されています。筆以外の道具でも、表現は無限にできるんだな、と改めて気づかされます。

マチエールは作品の個性を表すと言えらと思います。ぜひ、身近な絵画鑑賞で油彩画やアクリル絵の具の作品があれば、絵の具の表現に注目してみてください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

【お知らせ】

年末年始の休館日は、12/30 ～ 1/6 です。

それに伴い、グリーンレター 1 月号は休刊となります。

みなさまよい年末年始をお過ごしください。

学芸員のつぶやき



.....
先日の雪で早くも足を滑らせ、危うく転びそうになりました。恥ずかしながら、これまで何度も転倒を繰り返しています…特に階段の上り下りが怖い！転ばない歩き方を習得しつつ、靴底も滑り止めの加工をしてもらおうか悩んでいます。(久保田)